

航空事故調査報告書
日本航空株式会社所属
ボーイング式747-200B型JA8129
公海上空
昭和62年12月1日

昭和63年1月20日
航空事故調査委員会議決

委員長	武田	峻
委員	薄木	正明
委員	西村	淳
委員	東	昭
委員	竹内	和之

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747-200B型JA8129は、昭和62年12月1日、同社の定期797便として大阪国際空港から上海空港へ向け飛行中、12時40分(日本標準時、以下同じ)ごろ、北緯32度東経125度付近の公海上空の同機内において、旅客1名が死亡した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 事故の通知及び調査組織

航空事故調査委員会は、昭和62年12月1日、運輸大臣から事故発生の通報を受け、当該事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

616001

1.2.2 調査の実施時期

昭和62年12月8日 事実調査

2 認定した事実及び事実を認定した理由

JA8129は、昭和62年12月1日、旅客351名、乗員19名(運航乗務員3名、客室乗務員16名)が搭乗し、11時05分大阪国際空港を離陸し、上海空港へ向けて飛行中、12時30分ごろ福江の西約360キロメートルの公海上において、食事中的男性旅客1名(68歳)が、食物を喉に詰まらせ苦しんでいるのを客室乗務員が発見し、直ちに同機内に乗り合わせた医師1名及び看護婦1名に助力を求め、吸引器等による食物の除去が試みられたが、12時40分ごろ同医師により死亡が確認された。

旅客の遺体は、同機が13時22分(上海時間12時22分)上海空港に着陸後、上海医科大学において病理解剖に付され、死亡原因は機内食の肉の塊(2.5センチメートル×3センチメートル×7センチメートル)が気管を塞ぎ、窒息したものと診断された。

なお、機長の報告によれば、旅客に異常が発生した当時、同機は高度24,000フィートを静穏な状態で飛行していたとのことであった。

3 原因

本事故は、食事中に旅客が食物により気管が塞がれ、窒息死したものと認められる。

616002